

令和3年度(令和2年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 05-009

PDCA	事務事業名	平和運動推進事業	部課等名	総務部 総務課 総務担当	担当	羽根	
					内線等	246	
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第5章 育ち合い共生を進めるまち 節： 第1節 学校教育の充実 基本施策： 1. 義務教育 単位施策： (4) 地域との連携協力 個別施策： ①ふるさと半田を大切にする教育の推進					
	根拠法令等	-					
	対象・目的	恒久平和に寄与するため、次世代を担う小中学生を中心に各種事業への参加を呼びかけ、戦争の悲惨さや平和の尊さを伝えていく。					
	目的を達成するための手段・活動内容	半田の戦争遺跡見学会、平和懇談会（学校出前編）、非核・平和パネル展、平和を祈念する折り鶴の作成、平和に関するポスターコンクール、ミニミニ原爆展等、多くの市民が参加できるような各種平和事業を開催する。					
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績	H30年度	R1年度	R2年度	単位	
		①各種平和推進事業の実施件数	7.0	8.0	6.0	件	
		事業費	684.0	1,024.0	81.6	千円	
		人件費	1,249.0	1,242.0	1,234.4	千円	
		総事業費	1,933.0	2,266.0	1,316.0	千円	
		活動単位当たりのコスト	H30年度	R1年度	R2年度	単位	
	①平和推進事業1件あたりのコスト	276.0	283.0	219.3	千円		
	②平和推進事業に係る参加者1人あたりのコスト	343.0	393.0	315.9	円		
	成果	成果指標	H30年度	R1年度	R2年度	単位	
		①各種平和推進事業への市民参加割合	実績値	4.7	4.7	3.5	%
			目標値	4.2	4.2	4.7	
			実績値				
		目標値					
		実績値					
	目標値						
C 課題の整理	観点別評価	必要性	有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	中程度	⑦コスト削減余地	ある
		②市民ニーズ	低い	⑤成果向上の余地	ある	※対象・手段の変更	
		③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	ない
	事業の評価・課題	C					
		新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした事業があり、また、実施した多くの事業においても規模を縮小せざるを得なかったため、目標に至る実施値を得ることができなかったが、可能な限りの事業の推進を図った。 年度の後半には、半田での戦争の記録を伝承するため、「半田空襲と戦争を記録する会」と連携し、これまで発刊を重ねてきた『半田の戦争記録』をベースに概要版作成に取り組んだ。					
	A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	改善推進 戦争を知らない世代が増えている中、戦争体験者から直に話を伺うことができる平和懇談会の開催は、大変貴重な機会であるが、平和懇談会に参加できる戦争体験者は、年々高齢化している。そのため、講師を担っている「半田空襲と戦争を記録する会」も後継者育成のために、令和元年度からは各小学校に出向く出前講座に戦争体験者の子世代を参加させるなど、事業を継続できるよう協力をいただくことができている。今後も令和2年度に作成した『半田の戦争記録-概要版-』の有効活用を図りつつ、平和事業の内容等を充実させていく。				
		令和3年度の目標	成果指標	目標値	単位		
			各種事業の実施を通じて、戦争の悲惨さや平和の尊さへの意識が高まる市民が増加する。	-	-		